

## 令和6年度 文教企業委員会行政視察報告書

1. 期 日 令和6年7月8日（月）～7月10日（水）
2. 視察委員 岩原昇（委員長），定森健次朗（副委員長），亀井聡美，院去裕，山本良二，藤本哲智，渡辺一照
3. 視察都市

月 日	視 察 先	調 査 事 項
7月8日（月）	大阪府枚方市	枚方版ICT教育モデルについて SNS相談アプリについて
7月9日（火）	奈良県奈良市	AIを活用した個別最適化学習について SNS相談アプリについて
7月10日（水）	兵庫県姫路市	ICTを活用した学校教育について

#### 4. 視察目的

GIGAスクール構想の実現に向けた取組が全国で進められている中、呉市においても令和3年度から呉市立小・中学校に在籍する全ての児童・生徒に1人1台のタブレットを配備し、教育現場におけるICT活用を推進している。

しかし、授業等での活用は進んでいるものの、蓄積された児童・生徒の教育データを十分に利活用するには至っていないことや、タブレットの活用による教職員の働き方改革の推進、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見かつ迅速に対応するシステム構築などの課題がある。

そこで、本委員会では、学校現場におけるタブレットの効果的活用について着目し、今後、より一層、授業改善や最適な個別学習を推進するため、その先進事例等を調査することを目的とする。

#### 5. 視察内容

##### (1) 大阪府枚方市

###### ①調査内容

大阪府枚方市では、予測困難な時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるため、ICTの活用による新しい学校教育の確立を目標に掲げ、令和3年に枚方版ICT教育モデルを策定している。

また、不登校児童・生徒への学習支援として、社会的自立を支援する教育支援センター「ルポ」やSNS相談アプリ「ぼーち」を活用することにより、児童・生徒の学習能力や心身の状態に応じた様々な取組が行われている。

###### ②質疑応答

不登校児童・生徒への学習支援の一環である、教育支援センター「ルポ」の取組やSNS相談アプリ「ぼーち」導入後の効果などについての質疑応答が行われた。

###### ③呉市での展開の可能性

SNS相談アプリ「ぼーち」は、相談としての活用以外にも、児童・生徒が自分の

気持ちを入力することにより、自分自身を知ることができ、教職員にも自分を知ってもらうことができるため、心を可視化できるツールとしても有益である。

また、児童・生徒からのSNS相談に迅速かつ的確に対応するためには、教育目線、保護者目線、子供目線での専門的かつ多角的な対応が求められることから、枚方市におけるSNS相談アプリ「ぼーち」の相談員は、市長部局のこども未来部の臨床心理士や公認心理士の資格を有する職員が対応しており、呉市においても教育委員会のみならず、市長部局の子供関係部門と協働して取り組む必要がある。

## (2) 奈良県奈良市

### ①調査内容

奈良市では、AI型デジタル教材「キュビナ」を導入し、AIを活用したテスト結果の分析を行い、習熟度や苦手分野に応じた復習教材を作成して、児童・生徒の習熟度測定や学習指導への反映等の課題解決のために取り組んでおり、また、児童・生徒の能力に適した学習や指導を行う個別最適化学習にも取り組んでいる。

AI型デジタル教材「キュビナ」による分析結果により、児童・生徒個々の能力特性が可視化され、復習教材を活用することで、児童・生徒の学習意欲の向上や教員の指導力向上などの成果が表れている。

また、学校におけるいじめの認知件数が全国的に増加傾向にあることを踏まえ、いじめ問題に係る相談体制をさらに強化するため、平成30年からSNS相談アプリを市立小学校では全国で初めて導入し、児童・生徒の各端末から容易に相談・報告ができるシステムを構築しており、従来の電話及びメールでの相談窓口と併用した取組を実施している。

### ②質疑応答

AI型デジタル教材「キュビナ」を活用した個別最適化学習や、SNS相談アプリ「スタンドバイ」などについて質疑が行われた。

### ③呉市での展開の可能性

呉市においても、令和4年度から市内の全小中学校でAI型デジタル教材「キュビナ」を試験的に導入し、令和6年度から本格的に導入している。

今後は、導入後のデータを収集し、どのように活用していくかが非常に重要な視点であり、アンケートなどを実施して現場の声を聞いた上で、データ活用について考えていく必要がある。

また、SNS相談アプリ「スタンドバイ」は、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見、迅速な対応、関係機関への早期支援につなげるための相談体制を構築することが可能であり、非常に有益であることから、呉市においても導入を検討すべきである。

また、これまで気付くことができなかった児童・生徒の異変に気付いたり、SOSを出せない児童・生徒の命を守ることにつながるSNS相談アプリを呉市でも導入し、より効果的な運用に資するためには、教育委員会だけでなくこども部と協働して専門的かつ多角的な対応が必要である。

### (3) 兵庫県姫路市

#### ①調査内容

姫路市では、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現のため、ICTを積極的に活用した「令和の日本型学校教育」に取り組んでいる。

児童・生徒のタブレット活用の底上げを図るために、市主催の教員研修はペーパーレスで実施しているとともに、ICT支援員による研修や相談体制の確立により、DX分野が得意でない教員に対する支援も実施しており、教師の指導力向上に資する取組が行われている。

また、姫路市は、文部科学省事業「教科書を活用した教師の指導力向上事業」のモデル校として、研修モデル開発の実証研究を実施しており、学習支援ソフトを組み合わせたデジタル教科書の効果的な活用も研究している。

#### ②質疑応答

ICTを積極的に活用するための児童・生徒、教員に対する支援や、デジタル教科書の活用状況などについて質疑が行われた。

#### ③呉市での展開の可能性

姫路市では、タブレットの効果的活用を促進するため、円滑なネットワーク環境の整備に取り組んでおり、教室へのキャッシュ機器設置や回線増強によるハード面の整備に加え、アクセスの一斉集中を防ぐために、登校時にログインした状態で、支障が出にくい教室後部の高い位置へ保管するなど、ソフト面での取組により、円滑なネットワーク環境を維持・整備している。

呉市においても、令和6年度から個別最適な学びの実現のためのAI型デジタルドリル、保護者の利便性向上のための保護者連絡システム及び教職員の働き方改革推進のための校務支援システムにおいて、機能拡張に取り組んでおり、教育活動や学校運営において、デジタル技術を効果的・効率的に活用するためには、ネットワーク環境の整備は必要不可欠であり、姫路市を含めた他都市の先進的な取組活動の情報を収集し、取り入れることが重要である。

また、児童・生徒の登下校時の負担軽減の観点からも、大きくて重い従来の教科書と比較して、デジタル教科書はとても有益であることから、呉市においても積極的にデジタル教科書の活用を推進すべきである。